

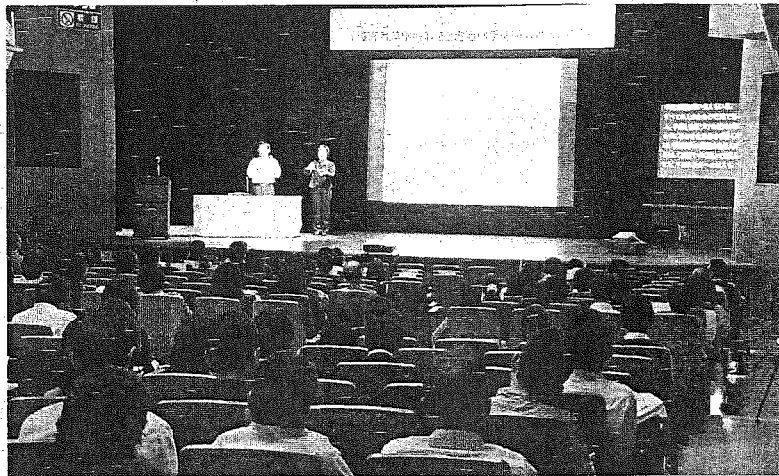
手話通訳活動紹介

泉市長「福祉でまち発展を」

明石でフォーラム

自治体に専門職として手話通訳者を配置し、市民サービスの向上に取り組む重要性を話し合うフォーラムが21日、明石市東仲ノ町の市生涯学習センター午線ホールであった。手話を言語として位置付け、障害者の会話や情報確保を促す条例などを定めた明石市の取り組みが紹介された。

フォーラムは「障害者差別解消法と自治体手話通訳者のしごと」と題して開催。主催した一般社団法人・全国手話通訳問題研究会(京都市)の浅井貞子理事は「明石市の取り組みが全国に波及するよう期待したい」と述



手話通訳者の重要性を話し合ったフォーラム＝明石市東仲ノ町で

べた。講演では泉房穂市長が、市の手話言語・障害者コミュニケーション

ン条例や障害者配慮条例、手話通訳士2人の職員採用について紹介し「障害者も暮ら

しやすい社会をつくるのは行政の責任。福祉の充実をまちの発展につなげる」と強調した。約15分間の講演中、可能な限り手話を続けた泉市長は「率先して姿勢を示すことが大切だった」と

話した。また、耳が聞こえず声で話せないろうあ者の家根谷敦子・明石市議が、初当選した昨年4月からの状況の変化を説明。市職員の手話によるあいさつも「ずいぶんスムーズにな

り、雰囲気が変わってきた」と話し「手話通訳士は通訳の技術だけでなく、広く市民にとっても必要な職員。市の施策が前進することに結びつく」と話している」と話した。

【浜本年弘】